

平成31年

4月

No.139

地域連携センターだより



IZUMI CITY GENERAL HOSPITAL
和泉市立総合医療センター

発行/和泉市立総合医療センター 地域連携センター (毎月1回発行)
電話/直通 0725-41-3150 代表 0725-41-1331
FAX/直通 0725-41-2513

新総長就任のご挨拶

総長 村上 城子



陽春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年4月に和泉市

立総合医療センターが開院して、約1年が経過いたしました。昨秋に歯科口腔外科を新たに開設し、診療科数は計33診療科となりました。診療科数の増加に伴い、複数の疾患を併発している患者さんの診療範囲が大きく広がり、外来患者数、入院患者数、救急搬送数、手術件数、検査件数などが予想を裏切る形で増加しております。

なかでもCT、MRI等の検査件数が大きく伸びたために、診療所からの検査依頼に迅速に対応することが出来ず、待ち日数が発生してご迷惑をおかけ致しました。このたび2台目のCT、MRIを導入致しましたので、混み具合が緩和されると思います。今年度は地域連携センターの充実を課題としております。地域の回復期病院や療養型病院との連携を一層強靱にして、在院日数を短縮しながら、診療

所からのご依頼に急性期病院として迅速に対応できるよう、改善して参る所存でございます。

初期研修基幹病院として昨年春から初期研修を開始しましたが、さらに内科系の診療科数の充実を得て、昨秋からは内科専攻医の基幹型病院にも指定されました。今春4月から新たに多数の医師が赴任し、医師数は約100名体制になります。初期研修医、専攻医(後期研修医)、そして多くの専門医師がそれぞれの能力を最大源に発揮して診療にあたっております。医局内では治療に関する相談など診療科を越えた会話が弾み、雰囲気はとても良好です。

このたび新執行部体制を整えましたのでご報告申し上げます。総長 村上城子、病院長 松下晴彦、特任病院長 西岡 伯でございます。福岡正博は名誉総長に就任いたしました。新たな執行部体制のもと、地域の病院、診療所の先生と手を携えて、急性期病院としての役割を果たして参りたいと気持ちを引き締めております。本年度もどうか暖かいご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

新病院長就任のご挨拶



春風が心地よいこの頃、皆様には一層ご活躍のこととお慶び申し上げます。

このたび和泉市立総合医療センター病院長に就任いたしました松下晴彦です。この4月より村上天子総長、西岡伯特任病院長の新しい体制となりました。村上前病院長は私の知る限り最も激動の時代を乗り切った病院長だと思います。皆様ご存じのように旧和泉市立病院は村上天院長時代に指定管理者制度に移行し、その後病院の新築移転、新たな和泉市立総合医療センターとしてのスタート、数多くの新診療科の参加、と端で見ていても目が回りそうでした。この激動の時代をうまく乗り越えることができた前病院長の後を私のような若輩者が引き継ぐのは身の引き締まる思いがいたします。

和泉市立総合医療センターに課せられた任務は多数ありますが、私は病院の柱は救急医療と専門医療の二つと考えています。救急医療は地域住民の健康を守るために、また和泉市の基幹病院としてなくてはならない業務であり今後さらに充実していく予

病院長 松下 晴彦

定です。

専門医療は、質の高い高度医療を地域の方々に提供するものです。地域医療は救急医療に特化するほうが有用であるとする意見もありますが、私はそうは思いません。専門医療が充実しているからこそ救急医療ができるのだと確信しています。さらに地域の高齢化の問題もあります。私の専門は呼吸器内科ですが、呼吸器病棟に入院している患者さんの8割が80歳以上になる時もあります。このような高齢の患者さんも、現在の医学であれば治療効果が十分に期待できる疾患であることが多々あり専門医療の恩恵を受けることが可能となりました。高齢の患者さんだけでなく、若年の患者さんも通常の生活を送りながら地域の専門病院で治療を続けることを支援することは非常に重要であり当センターの役割と考えています。

新病院移転後、救急・専門医療の実績を上げてこられたのも地域の病院、診療所の先生方のご支援によるものと考えております。本年度も皆様の期待に応えることができますように尽力いたします。

特任病院長就任のご挨拶



特任病院長
近畿大学医学部地域医療連携学総合講座
泌尿器科部門教授
西岡 伯

平素より地域の医療機関の皆様方には、大変お世話になり誠にありがとうございます。今年度より特任病院長を拝命いたしましたので、紙面を借りてご挨拶を申し上げます。

ご存知の通り当院は、昨年4月に和泉市立病院から和泉市立総合医療センターと名称を改め、新築の建物と共に新たなスタートをいたしました。私たちの目標は、「総合医療センター」の名に恥じることのないように、高度医療の提供、救急医療の充実、災害医療への対応、優れた医療人の育成などを通じて地域医療に継続的に貢献するこ

とです。そのためにも、大学病院を含めた関係機関との確固たる医療連携を構築し、常に進歩し続ける医療のブラッシュアップを怠らず、また優秀な人材を確保することを通して、健全な病院運営を行います。これからも当院が地域の中で果たすべき役割を十分認識し、地域に信頼されるセンターとなるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

病院の理念



- 1、患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
- 2、患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
- 3、新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
- 4、思いやりのある医療人の育成に努めます。

新年度にあたって看護部長よりご挨拶



看護部長 川口 いずみ

当院は平成30年4月1日、新築移転にともない名称を和泉市立病院から和泉市立総合医療センターに変更しました。診療科は16科から33科へ、医師数、その他の職員数を大幅に増員し、今まで以上に患者様を受け入れ、地域医療の充実に貢献することが可能となりました。

体制の拡大がされていく中で、看護部は多くの看護師、幅広い年齢層が活躍する部門になっています。経験年数、年代の違う職員同士の関わりで、新たな発見があり、お互いの良い所などが学び合える職場環境になるのではないかと考えています。

当院の看護師は新しく開設された診療科について知識を深めるため、研修会や院内の勉強会に積極的に参加しています。既存の診療科についてもさらに専門性を高めるため日々学び続けています。

また個々の専門性を高めるだけでなく、患者様の状況に的確に対応した医療を提供する為、他職種を理解し多方面から現場を捉え、看護師としての役割、技術を活かし

ていくことが求められています。院内では多種多様な職員が働いていますが、目指す医療は同じです。それぞれの視点を共有するため、各診療科領域で関係する他職種と合同で行う勉強会などの時間を設けています。

思いやりと優しさを大切に、患者様に寄り添う看護を目指し走り続け、気づけば新築移転から1年が経過しました。患者様から頂く看護師に対する貴重なご意見、近隣の病院や介護施設の職員の方と当院でお話しする機会を通し、自分たちに求められていることを知ることができました。これから、その寄せられた「声」に応えていきたいと考えています。

この春、看護師の人数も更に増え、看護部に新たな風が吹き、組織体制の強化、連携がより重要になります。教育体制を充実させ、患者様の健康と生活を守れる看護師を育てていき、地域の方、来院された方に「当院があるから安心」と言っていただける病院にしていきたいと思っています。

入退職医師のご案内



平成31年3月末付け 退職常勤医師



脳神経内科	中村雄作	皮膚科	山内あい子
消化器内科	尾野亘 (岸和田徳洲会病院へ転籍)	耳鼻いんこう科	速水康介
呼吸器内科	宮本篤志	小児科	藤井隆大
リウマチ・膠原病内科	岡田晃典	小児科	曾我部茉耶
外科	須浪毅	放射線科	阪井雄紀
整形外科	岸村裕一	病理診断科	沖村明
整形外科	前田真吾	(※2月退職 肝胆膵内科 山田孝雄)	
整形外科	柴田雄輝		
歯科口腔外科	児玉晨吾		



平成31年4月付け 入職常勤医師



呼吸器内科	中辻優子	脳神経外科	長東一紘
呼吸器内科	古瀬秀明	呼吸器外科	下治正樹
呼吸器内科	藤井善憲	歯科口腔外科	趙正秀
肝胆膵内科	野々村綾実	皮膚科	渡邊美樹
リウマチ・膠原病内科	赤澤宗輝	小児科	須永紋奈
リウマチ・膠原病内科	石村香織	小児科	松谷恵理
腫瘍内科	津谷あす香	放射線科	大平友弘
血液内科	三宅義昭	放射線科	岡崎真大
内分泌・糖尿病内科	奥田祐輝	麻酔科	橋村俊哉
内分泌・糖尿病内科	水本加津子	麻酔科	義間友佳子
外科	三浦光太郎		
外科	高橋諒		
整形外科	黒田貴顯		
整形外科	上田昭一		
整形外科	植野修平		



2019年3月15日時点

CT・MRI装置 増設のご案内

検査依頼の増加に伴い、「予約が取りづらい」「待ち時間が長い」などのご不便・ご迷惑をお掛けしております。3月よりCT装置1台、さらに4月よりMRI装置1台を増設致しました。今後は各2台体制で地域の先生方からのご依頼に迅速に対応してまいりますので、ご紹介の程よろしくお願ひ申し上げます。

3月～

80列ヘリカルCT装置 増設

Canon社製 Aquilion Prime SP



80列CTは1回転で80枚の画像を同時収集でき、さらに輪切りの断面画像のみならず任意方向からの観察ができる3D画像の表示も可能です。

新たに開発されたハードウェア、ソフトウェアの搭載により、更なる低被ばくと高画質を両立した、患者様に優しい検査が行えます。

4月～

1.5テスラMRI装置 増設

フィリップス社製 Ingenia Prodiva 1.5T



デジタル化による画質の向上、コイルの軽量化やシンプルな接続により患者様の負担軽減を実現。質の高い診断・治療を、より早く、より多くの患者様に提供します。

4月休診のお知らせ

外科

1日(月) 坂下 克也 医師 休診

小児科

12日(金) 澤田 智 医師 休診

呼吸器内科

1日(月)【午前診】
松下 晴彦 医師 休診
(未定) 医師 代診

リウマチ・膠原病内科

16日(火) 赤澤 宗輝 医師 休診

12日(金) 柳生 恭子 医師 休診

腎・透析内科

20日(土) 東 治人 医師 休診

皮膚科

3日(水) 林 恵理子 医師 休診
25日(木) 平田 央 医師 休診

耳鼻いんこう科

12日(金) 阪本 浩一 医師 休診
大石 賢弥 医師 代診

腫瘍内科

5日(金) 福岡 正博 医師 休診
18日(木) 枚浦 孝宗 医師 休診

婦人科

9日(火)・11日(木)・16日(火)
梅咲 直彦 医師 休診

